



温暖な気候と瀬戸内の美しい風景



愛媛県の北部に位置する今治市は、広島県尾道市とともに、日本遺産「日本最大の海賊」の本拠地：芸予諸島-よみがえる村上海賊「Murakami KAIZOKU」の記憶-として登録されています。古くから交通の要衝として栄え、造船やタオル生産が盛ん。温暖な気候や瀬戸内の美しい風景も魅力です。

来島海峡大橋

日

本の源流再発見

File 16

愛媛県今治市

「日本最大の海賊」が活躍した海と島々

村上海賊の名がはじめて歴史上に登場したのは、南北朝時代のこと。戦国時代には、『日本史』を著したイエズス会の宣教師ルイス・フロイスが「日本最大の海賊」と評するほど、その名を広くとどろかせていました。

村上海賊は、村上三家から成り、来島には来島村上氏が、能島には能島村上氏が、因島には因島村上氏が城を構えていました。彼らの本拠をはじめ、多くの島々が連なる芸予諸島周辺の海は一見穏やかに見えますが、実は潮流が激しく、古来より難所として知られてきました。そこで、この海を知り尽く

した村上海賊たちは、航海の安全を保障する代わりに通行料を徴収。海の関所として瀬戸内海の東西交通を支配しました。

その村上海賊の歴史を学べる施設「今治市村上水軍博物館」が、能島城跡を望む大島の海岸沿いにあります。映像や復元船、発掘資料などの多角的な展示で、村上海賊の活躍した様子を知ることができます。体験コーナーでは甲冑や小袖を試着し、海賊気分を味わうこともできます。このほか、能島村上氏の最盛期を作り上げたといわれる大将、村上武吉が着用したと伝わ



来島城跡

る猩々陣羽織など、能島村上家に伝わる多くの資料も展示されています。

来島は、今治市波止浜からフェリーで5分ほどのところにあります。居城の石垣遺構や棧橋の柱を建てた跡といわれる柱穴跡などが残り、当時を偲ぶ



▲ 今治市村上水軍博物館

博物館の周囲には能島村上氏の紋章である丸に上の字を染め抜いた赤いのぼりがはためき、まるで海賊の館のよう。写真は、村上海賊の機動力として活躍した小型船を復元した小早船（こはやぶね）です



▲ 能島

天然の要塞といわれ、三大急潮に数えられる来島海峡に並ぶほどの潮流をもつ宮窪瀬戸に囲まれており、潮流クルーズもあります



▲ 今治城

関ヶ原の戦いで戦功により伊予半国20万石を拝領した藤堂高虎が築城。別名吹揚城（ふきあげじょう）。海水が引かれた広大な堀や城内の港として国内最大級の船入を備えた海城でした



▲ 今治タオル本店

約400種、2万点以上のアイテムがそろった日本最大級のタオルショップ。色合いも手触りも異なる何十種類もの白いタオルが並び棚は圧巻

ことができます。

1588年豊臣秀吉が発布した海賊禁止令により、瀬戸内海では海賊たちが自由に活動できなくなりました。その後、今治に城を構えたのが藤堂高虎。その今治城は、瀬戸内海に面した海岸に築かれた大規模な海城です。現在の天守は1980年に再建された模擬天守ですが、当時の建造物も、内堀と石垣の一部が残っています。

今治といえば「今治タオル」。赤地に白丸、その下に青い三本線という今治タオルのブランドロゴは、多くの人が一度は目にしたことがあるでしょう。このロ

ゴマークは、今治タオル工業組合が定める独自の品質基準に合格した商品にのみ使用が許されています。今治タオル本店には、手織りの織機によるタオル織り体験や吸水性検査の疑似体験などができる「今治タオルLAB」が併設され、楽しみながらタオルの知識を深めることができます。

ココに注目

清光堂の「一福百果 まるごとみかん大福」は、甘くておいしい愛媛県南予地域のみかんをまるごと一個、白餡と求肥で包んだ逸品です。



日立グループ事業所紹介

今回訪れた愛媛県には株式会社 四国日立 愛媛支店があります。愛媛・徳島・高知を営業エリアとして、日立グループ製品（産業機器・空調機器・電動工具・ビル関連製品・照明器具など）の販売およびアフターサービスの提供などを行っています。

株式会社 四国日立 愛媛支店 愛媛県松山市山越四丁目13-10
<http://www.hitachi-hansya.jp/shikoku-hitachi/>